

<全体分析>

試験時間

80 分

解答形式

全問マークセンス方式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

長文総合問題2題、会話文、文法・語法問題、語い問題各1題による大問5題構成。長文総合問題で出題される内容一致問題に「本文からだけでは判断できない」選択肢を答えさせる問題が含まれるのは本学の特徴。

その他トピックス

昨年度からの変化なし。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合 (880 語)	「南極海横断レース (The Ocean Race) に参加する船の協力を得て行われる環境調査」 Yvonne Gordon 著	標準レベルの英文だが、細かな情報も正確に読み取り文脈を理解する必要がある。〔1〕の英問英答の内容一致問題では、対応箇所は見つけやすいだろう。〔2〕の内容一致問題は、内容に一致するもの、しないもの、どちらとも判断しかねるものを答える問題。(2), (4)は「本文に記述なし」と考えて3を正解と考えることも出来るだろう。〔3〕は主題を選択する問題。	標準
II	読解総合 (831 語)	「都市部で収穫可能な食料の場所を示すオンライン地図: falling fruit」 Liz Susman Karp 著	〔1〕空所補充問題 (前置詞句, ディスコース・マーカ一, 関係詞節, 形容詞句など)。〔2〕下線部の代名詞や「this+普通名詞」が表す意味または内容としてもっとも適当なものを選ぶ問題が出題される。正確に文脈を追いながら英文を読む力が求められる。(い)は(3)の remove trees を地図からではなく物理的に「取り除く」と解釈するなら(4)を正解と考えることになるだろう。	標準
III	その他	会話問題 〔1〕 (181 語) 〔2〕 (221 語)	発話の数が 10 前後の会話文が 2 題出題され、いずれも 4 つの空所に英文を入れて会話を完成させるもの。会話の内容はわかりやすいが、選択肢が 10 個与えられており、慎重に選ぶ必要がある。	標準
IV	文法・語法		8 題。neither A nor B, 仮定法, 時制などに関する知識が問われた。	標準
V	その他	〔1〕 適語補充 〔2〕 類義語選択	〔1〕は空所に入れる語い, 〔2〕は下線部に近い意味の語いを選ばせる問題。選択肢には numerical, knicker などの難語も出された。〔2〕 (D) の hunger を動詞として使う用法ははじめて見た受験生も多いだろう。	やや難

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

英語学習では文法を避けて通ることはできない。文法参考書をまずは通読し、文法項目別に練習問題を解きながら知識の定着を図ろう。また単語や熟語の暗記も重要である。遠回りのようだが、辞書を引き、文法書を調べ、1つ1つの英文をしっかりと読むという地道な努力を積み重ねることがすべての問題への対策になる。その上で〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕の長文対策として様々なテーマの文章を精読し、構文理解や要旨の把握に努めよう。その際、文脈把握、指示語、代用表現に留意して読むことが〔Ⅱ〕の対策になる。正確に読めるようになってきたら解答時間を意識し、読む速度を上げていこう。〔Ⅲ〕の会話問題の対策としては、会話全体の流れを読み取る練習や会話独特の表現習得のために、共通テストなどのリスニング問題のダイアログを活用するとよい。